

フォトエッセイ 国境なき音楽紀行 II

第2回 オマーン<後編> ～王位を捨てたスルタンの純愛～

日頃、音楽を通して人々と交流し、世界各地を旅することが多い。これら旅の印象と感動を、フォトエッセイという形でほんの一部でも皆さまにお届けできればと思う。

平井元喜

* 平井元喜さんがオペラの雑誌に連載されていた人気フォトエッセイ『国境なき音楽紀行』が Euro News 誌で蘇り、続編がスタートしました。



日本とオマーンの縁は、意外にも深い。オマーン現国王（スルタン）カブールの祖父タイムール国王は、身分を隠して世界旅行をしていた1935年（昭和10年）、神戸を訪れ、ダンスパーティーで19歳の大山清子さんと運命的な出会いを果たす。一目で心を奪われたタイムールはすぐに求婚し、二人は恋に落ちた。

清子さんの両親は、親子ほど歳の離れた異国人との結婚に猛反対した。やがてタイムールの熱意に打たれ、二人に出した結婚の条件は「日本で暮らすこと」であった。当時、タイムールには6人の妻と6人の子供がいた。タイムールは一旦帰国し、王位を弟に譲り、1936年、晴れて二人は結婚し、神戸の丘の上の豪邸で優雅な暮らしぶとした。この時、清子さんは國王であることを見知られていなかつたという。翌年誕生したのが現国王の叔母にあたるブサイナ王妃（節子）である。3年後、清子さんは腎盂炎で亡くなつた。

二人の幸せは長くは続かなかつたが、80年以上前の純愛は実を結んだ。東日本大震災後、オマーンは被災地の浄水器メーカーに26億円もの発注をした。オマーン滞在中、私はスルタン・カブース大学と駐オマーン日本大使公邸で2回のピアノリサイタルを開いた。ロンドンに戻る日の朝、首都マスカット北部にある女子高校（王室 Awamer Girls' High School）でワークショップを行つた。オマーンではイスラムの教えにより、一般的に男女別々の学校に通う。私はこの学校でアラビア語で書かれた西洋楽譜を用い、英語で音楽の授業をした。ピアノは無い。だがキーボードで何曲か弾くと皆、全員を耳にして聴いてくれた。

教室を移動すると、今度は彼女たち生徒が主役となつた。様々な民族楽器でアラビア風の音楽を奏で、唄い、そして踊り狂う。音楽の魔力とでも言おうか。私は一緒になつて太鼓や民族楽器をかき鳴らし、我を忘れた。



首都マスカットにある地元の女子高校で行つたワークショップ。

最後に男子校の生徒たちが合流した。女生徒たちにとって月一回の楽しみである合同練習だ。彼女達は踊るのをやめ、急に静かになつた。男女は一切言葉を交わさない。しかし、演奏中、互いに強い眼差しを送る。心で交流していくのだ。音楽がそのことを雄弁に語っていた。タイムール国王の純愛に想いを馳せた。

人種・言語・宗教の壁を超えて、音楽は人の心に直接響く。そして、音楽を愛するという一点において、世界に国境など存在しない。この信念を胸に私の旅は続く。

平井 元喜（ひらい もとき）

【プロフィール】ピアニスト、作曲家。73年東京生まれ。桐朋高校、慶應義塾大学文学部哲学科、英王立音楽院大学院卒。これまでヨーロッパ・中東・アフリカ・アジア・米国・中南米各地を演奏旅行。米カーネギーホール、英ウェーブモアホール、蘭コンセルトヘボウ等でしばしばリサイタルを行う。2016年は、コンツェルトハウス（ウィーン）、バー・ピカンセンター（ロンドン）、銀座王子ホール、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭など世界各地で公演。音楽を通して平和・教育・医療・環境問題にも積極的に取り組む。3.11以降、30回以上に渡り復興支援コンサートを続ける。07年よりプロジェクト「日本の民話絵本を世界へ」（朗読・音楽・映像のコラボ）を芸術監督として主導。NHK文化センター、時事通信社トップセミナー等で講演。BBC、NHK、テレビ朝日「題名のない音楽会」など内外各地でテレビ・ラジオに出演。96年よりロンドン在住。www.motoki-hirai.com



女子校訪問中の男子生徒の音楽グループと民族楽器ウード（琵琶やリュート）の祖先）を抱える筆者。

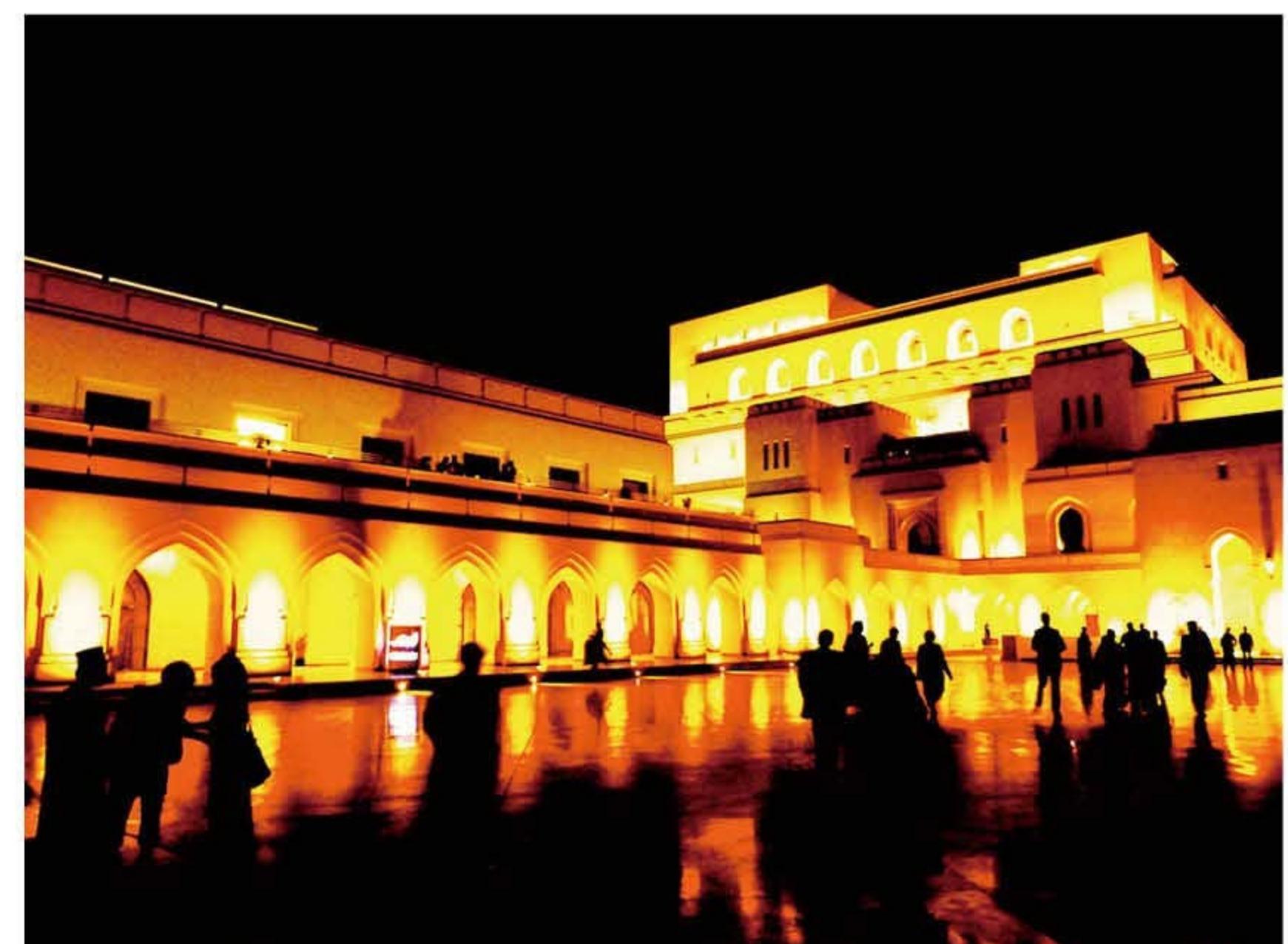


この後、踊りは徐々に激しさを増す。オマーンの女性は、南国気質で自由闊達、いつも陽気で進学率も高い。



カブース現国王の肖像画を背景に、生徒たちと筆者。

グランドモスクの回廊。日差しは強いが乾燥していて、抜けるような青空が清々しい。（撮影：平井元喜）



クラシックの普及に力を注ぐカブース国王が建てた荘厳華麗なカブース・オペラハウス。時折ドミニゴラ世界的な歌手も出演する。（撮影：平井元喜）



各国大使夫妻ら VIP を招いて開催した在オマーン日本大使公邸でのピアノリサイタル。

平井 元喜（ひらい もとき）

【プロフィール】ピアニスト、作曲家。73年東京生まれ。桐朋高校、慶應義塾大学文学部哲学科、英王立音楽院大学院卒。これまでヨーロッパ・中東・アフリカ・アジア・米国・中南米各地を演奏旅行。米カーネギーホール、英ウェーブモアホール、蘭コンセルトヘボウ等でしばしばリサイタルを行う。2016年は、コンツェルトハウス（ウィーン）、バー・ピカンセンター（ロンドン）、銀座王子ホール、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭など世界各地で公演。音楽を通して平和・教育・医療・環境問題にも積極的に取り組む。3.11以降、30回以上に渡り復興支援コンサートを続ける。07年よりプロジェクト「日本の民話絵本を世界へ」（朗読・音楽・映像のコラボ）を芸術監督として主導。NHK文化センター、時事通信社トップセミナー等で講演。BBC、NHK、テレビ朝日「題名のない音楽会」など内外各地でテレビ・ラジオに出演。96年よりロンドン在住。www.motoki-hirai.com